



東村山市子ども読書活動推進計画

第2次（平成22年度～26年度）

進捗状況報告②『きょういく東村山』より

学校図書館の環境整備



学校図書館への取り組み

市立小・中学校図書館は、日頃から司書教諭や図書館担当教諭、図書委員会の子どもたち、保護者や地域のボランティアの方々によって整理され、図書の時間や昼休みに利用されています。

平成17年度からは、より使いやすい図書館を目指して「子ども読書活動推進計画（第1次）」に沿って、市内全校の図書装備（ブックフィルムや分類ラベルの付け方）を統一したり、市立図書館司書が訪問して整備方法の助言やボランティアへの研修を行ったりしてきました。

そして「第2次東村山市子ども読書活動推進計画」のスタート年である今年度は、国の緊急雇用創出事業を活用して数名を学務課臨時職員として雇用し、改めて全小中学校図書館の整備を行いました。

寄贈本の活用

まず、蔵書数増加の取り組みとして、学校図書館に寄贈する本の準備をしました。

寄贈本は、長年地域の子ども達のために活動し、3月で閉館した地域文庫「多摩湖町児童図書館」から小学校へ贈られたもの、市立図書館の再利用本、市の職員から集めたものなど合わせて約3千冊ありましたが、それらに対してブックフィルムや分類ラベル付けなどの作業をしました。

学校での作業

夏休みが始まると、回田小学校を皮切りに、小学校2日間、中学校4日間ずつ全校を学務課臨時職員と最寄りの市立図書館司書が訪問して、大がかりな作業や事務処理をしました。

小学校は、普段なかなかできないレイアウト変

更や、絵本の並べ直しなどを行いました。本を探しやすくするための書架サインを設置した学校もあります。また、古くて使えない本を引き抜いた代わりに、寄贈本を補充しました。

中学校は、主に古い本の引き抜きや分類ラベルの貼り替えなどを行いました。

学校での作業は11月まで続きましたが、子ども達や保護者の方からは「図書室がすっきりした」「きれいな絵本が増えた」との声が聞かれました。

学校巡回後は、2月までの間に引き続き書架サインの作製などを行い、必要な学校に設置する予定です。

更なる活性化を

学校図書館は、分類番号に沿って系統的に並べることによって「本を戻す」「本を探す」ことが容易になり、多様な本との出会いや調べ学習の充実につながります。また、常に蔵書構成に配慮して蔵書を見直し、基本書と新刊書を備えなければなりません。

この事業をきっかけに、学校図書館の利用が広がり、更なる活性化が図れるように連携を深めていきます。

『きょういく東村山』第63号より

平成22年12月15日号

編集・発行 東村山市教育委員会